



高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740(32)4156

「致良知」の一考察

賛助会員 戸次 威左武

一、中江藤樹先生の「致良知」とは
「人は、だれでも『良知』という美しい心をもって生まれています。ところが、人々は、次第にみたくいろいろな欲望が起きて、つい良知をくもらせてしまいます。私たちは自分のみにくい欲望に打ち克つて、良知を鏡のようにみがき、その良知に従い、行いを正しくするよう日々努力することが大切です。」という教えです。

生まれた時の赤ちゃんは純粹です。孫はかわいいし、歌舞伎や能の舞台で子役が出てまいりますと、その舞台の雰囲気さがらりと変わって、子供の魅力にみんな引き付けられます。その魅力が「良知」だと思っています。

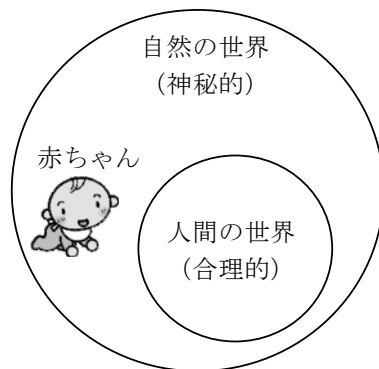
二、人間と自然

人間の作った物はほとんど直線です。机、家、ビルデザイン



グなど、少し曲線がありませんが、それは円か単純な曲線で直線がほとん

どです。それに対して、自然界の物は複雑な曲線です。花、木、山、動物、人間など、どれを見ても曲線です。その能力を考えてみますと、人間の能力よりも、自然の能力の方がずっと大きいと思います。



人間と自然の関係を図に表しますと右のようになるのではないでしょう。自然の曲線の世界は広くて、その中に人間の世界があります。

人間の考えは合理的です。数字は人間が作った物です。物の価値も人間が作った物です。経済社会も人間が作った物です。すべて合理的です。直線的な物です。合理的の反対は、神秘的だと思えます。神秘的とは「人知ではかり知れない不思議なこと」です。曲線の自然の世界は人間の頭では理解できない世界です。

三、赤ちゃんとは人間と自然と人間社会

赤ちゃんは、人間という自然から生まれたものです。神秘的です。自

然の曲線の世界から生まれたものです。その赤ちゃんは「良知」という美しい心をもって生まれていると中江藤樹先生は言っておられます。性善説です。

自然から生まれた赤ちゃんは、人間社会で生活するため、人間社会のルールを親から学び、高度な知識は学校で習います。学校で学ぶことはテスト重視の教育ですから、人間の頭で答の出ることを学びます。ほとんどが直線的であり、合理的です。そして社会の荒波に翻弄されて生きていきます。赤ちゃんの「良知」を鏡にたとえますと、直線的な人間社会でいろいろなことを教わって生きていくにつれて、その鏡を曇らせてしまうと中江藤樹先生は言っておられます。生まれながらにして持っている「良知」をなるべく曇らせないようにする努力が必要だと教えていただいています。

四、幼児教育の大切さ

このように考えますと、学校へ行く前の幼児教育が重要であります。曇らない強固な鏡が必要です。親が生活の基礎、常識をしっかりと教える必要があります。

それが中江藤樹先生が言われます「良知に到る」「致良知」だと思いません。現在の社会にも通ずる正しい大切な教えであります。